



岐阜県版

第378号

2022年1月15日

治安維持法国賠同盟

岐阜県本部

〒500-8879

岐阜市徹明通7-13

岐阜県教育会館308号室

Tel 058-252-5366

振替00840-2-88638

新しい年をお喜び申し上げます

県本部会長 片桐 義之

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟(国賠同盟)会員、平和と民主主義・生活擁護のため日夜奮闘されている全ての皆さんに、新年のご挨拶を申し上げます。

通しを立てることができました。

他方、共闘と比例選挙を闘う難しさを浮き彫りにしました。

初めて、政権獲得を現実的課題として闘うことができ、市民と野党の共闘、それが「ふたたび戦争と暗黒政治は許さない」同盟の目標を達成する道であることを証明しました。(次ページ)

昨年は、コロナ禍の中で国賠同盟の要求する治安維持法犠牲者の名誉回復する政府樹立に向けた闘いとして、衆議院選挙が闘えました。市民と野党の共闘が実現し、政権交代による同盟の要求が実現する政府を目指して総選挙を闘うことができ、国賠同盟結成以来、はじめての経験でした。

その結果は、自民党の幹事長や派閥のトップを落選に追い込む成果を挙げました。また、統一候補は、応援する政党の合計より多くの得票を挙げるなど、今後の政権獲得に現実的見

私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する

二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法である事を認めること

三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事



今年は参議院選挙です、この経験を踏まえ勝利しましょう。

「わが青春つくるともー伊藤千代子の生涯」の映画製作で、わが岐阜県同盟は一〇〇万円の目標をいち早く達成し、一五〇万円に引き上げ、これも年末には達成しました。一緒に取り組んだ民主的組織の皆さんに心からお礼申し上げます。今後は上映運動を成功させるため、引き続き協力を願います。

憲法九条を守るためにも、国賠同盟会員の二万人達成と「わが青春つくるともー」の上映運動の成功のために共に取り組みましょう。



新年にあたつて

中濃支部 山田 弘

「敵基地攻撃能力保有の検討」を表明した岸田文雄内閣は、一二月二四日、暮らし圧縮、大軍拡の「一二〇一二二年度予算案」と「税制改正大綱」を閣議決定発表しました。

「再び戦争と暗黒政治を許さず、二一世紀を平和と人権の世紀にする」ために、治安維持法犠牲者に「謝罪と賠償を」と政府に求め、国会請願署名に取り組んできた私たちにとって許すことのできない国家予算案です。

一二月二一日、国賠同盟中濃支部理事会では、左記のような文書を各団体に送り署名の協力をお願いすることになりました。

日本を「ふたたび戦争する国にしない」ために、今年も国賠署名にご協力ください

侵略戦争を推し進めた治安維持法体制に、命がけで闘い抵抗した犠牲者に対して国の謝罪と賠償を求める国会請願署名についてもながら協力いただき誠にありがとうございます。

安倍・菅政治を継承した岸田政権、臨時国会を開じてみれば「安倍・菅政治」を單に継承

するだけでなく、これまでにない危険性が随所に現れています。補正予算に軍事費を七、七三八億円計上、当初予算と合わせて六兆円を超える海外で戦争する国へ」と危険なみちをつき進んでいます。

こうした道に抗して「9条改憲ノー・全国アクション」提起の一千万署名とともに、国賠同盟の請願署名を一筆でも多く署名していただき、来る参議院選挙で憲法擁護勢力を大きくしたいと考えています。

国賠同盟中濃支部は、本年も個人署名は有権者の一ペーセント、三〇〇〇筆、団体署名一〇〇筆を目標に取り組んでいます。

団体署名は、その団体の代表者の方に、個人署名は皆さんとの家族やお知り合いの方に呼びかけていただき、一筆でも多く集めてくださいますようお願い申し上げます。

個人署名（黄色色の用紙）

団体署名（緑色の用紙）代表者氏名は手書きで

岐阜県本部会長 片桐 義之
濃支部長 山田 弘



新年を迎えてのご挨拶

岐阜支部 宇野 美代子

一一〇一二一年、新年を迎えた私は、まだが「おめでとうござります」と一言に言い切つてよいのかと迷う今日の政情であります。が然し、私自身は本年三月で九十歳を迎える年となりましたので、多くの仲間の皆さんに支えられての九十歳を迎えることができましたから、めでたく有りがたく思いお札の心もこめて、新年のご挨拶を申し上げます。何と申しましても、私の人生と共に歩んできた「抵抗と愛に包まれた治安維持法犠牲者国賠同盟の運動」の歴史がいつか立派な大きな花となることを願つて止みません。

同盟の機関誌「治安維持法と現代」NO.四二を読みながら新春を迎えました。

卷頭論文五十嵐仁氏の論文は一気に読み、成る程合点でした。

「色あせた岸田カラー、おんぶお化け、食品サンプル内閣、見栄えはよいが食べることができない

料理、安倍色を岸田色に塗り替えただけ」等々の内容。ハト派・リバーブ派の衣の下には「安倍背後盡」政権の本質が隠されているのです。文芸欄では、木越暁氏の詩吟「ああ伊藤千代子追悼詩」はぜひ一読されることをおすすめします。心あたたまるものでした。漢詩になるのですから。

「治安維持法と現代」誌で新年を迎えた私は、私の同盟岐阜支部の遺言誌ともいえる。一二〇四年号・バックNO.七号は私が七十一歳の時に、岐阜支部女性部の活動記を詳細に綴った記念誌となつて今も大切に保管しているなつかしい誌であります。

皆さん、共に「千代子」になつて頑張つて「青春」を越え「老年」を生き抜きましょう。

お互いに眼の黒いうちに民主連合政権を打ち立てましょう。

各支部から新年の挨拶



9条変えるな!

東濃西支部 中嶋 國人

暦が変わることに命の変化を思い知らされ、明日へ向う気力・地力・体力の衰えと向き合いながら「世直し」の運動に加わってきた。諸活動の中でも治安維持法に関する運動を、「理解する」「行動する」には本当に粘り強い覚悟が求められる分野でもあります。

高齢化現象に勝てず、組織が次第に衰え、県道盟の中でも東濃西支部の凋落ぶりは危機的状況になつてしましました。

◇戦争と弾圧の歴史「治安維持法の監視社会において陣頭指揮を執った額額弥三（恵那市）国会議員に、そして衆院五区に三代目古屋圭司（憲法改悪責任者）は、反動政治の首頭取りを抱える県・市です。

このまま諦め見過ごすことはできません。有権者に広く呼びかけ夏の参議院選挙を目指し、権力側の挑戦を跳ね返す力を磨き、その一翼を果たす組織再建をどうしても創り出したいで

罪はいつさいの理解能力の限界を超えた犯罪なのです。この強制収容所だけで少なくとも一〇万人が計画的かつ冷酷な体系性を持つて虐殺されました。大部分はユダヤ人です。アウシュヴィツはドイツのドイツ人によって運営された絶滅収容所なのです。

私については、この事実を強調することが重要なことです。下手人達をはつきり名指しすることが重要なのです。

私たちドイツ人は犠牲者に対して、そして私たち自身に対してもうする責任があります。

犯罪を記憶し、下手人達をはつきり名指し、犠牲者たちの尊厳にふさわしい哀悼の心を保つこと、この責任に終わりはありません。」

(「世界二二〇〇年四月号)

メルケルの演説を読んだ。流れる涙をぬぐうことができなかつた。ドイツでは、ナチの戦争責任を永遠に追及すると同時に犠牲者に対する保障と尊嚴を認め、次の世代に記憶と想起を呼びかけています。日本とドイツのあまりにも大きな違いに愕然とせざるを得ません。

(四) 紀元節、復活の先頭に立つ

戦後、彌三の一一年間の衆議院の活動の中心は、戦前の紀元節を復活させることであった。国会で彌三はこう発言している。「日本書紀に、日本の正史として伝えられて参りました。二月十一日、これを一つの根拠としてこの日を祝日にしたい。神武天皇が天の子として大和に都を

お作りになつて…近代国家から見て一つの國の形というものができただといつぱうに私どもは見ておるわけあります。」

戦前の紀元節を根拠とした紀元前六百六十には(考古学上縄文時代)、神武天皇をはじめ幾代かの天皇は百三十歳から百四十歳生きたことにならなければ「年代のつじつまが合わない」と今日、学会が見ていることは常識である。紀元節は一九六七年一月十一日に「建国記念日」として復活しました。

(五) 彌三の怯え

國家権力をバックに、戦争に反対し平和を求めた人々を弾圧した彌三は、政界を引退してから晩年、自ら勝手に作りだした妄想に怯え、

びくびくしながら命をながらえ昭和五三年三月一五日、五〇年日の三・一五事件の日、肺炎のため死去、八五歳。

(六) 總縲彌三「シマ夫人の証言」

「どんな高名な方から頂いたお菓子でも主人が真つ先に食べるという事はありません。その前に私が手を出して食べてみてから安全な食物である事を確認してから、主人が食べるというのが

我が家のしきたりになつてゐるのです。

この部屋を良く見てください。三方がガラス戸で出入り口が二つあるでしょう。万一家の安全を考え、こう設計してあるんです。我が家を襲うため人がどの方向から入つて来てもどうさ

るのです。

日本共産党員を政治犯とか思想犯と呼び、人間扱いせず拷問を加えたのが特高警察ですからねえ。そして長い監獄生活でよう。仕返しされても何も反論できなくてしよう。しかし、戦後何十年もの間、まだ一度も日本共産党の人達に襲われたことはありません。自分で勝手に作り出した妄想に自分自身が怯えているわけですね。

ちゃんと社会に向つて悪かつた事を謝罪し、批判を受けるところは甘んじて受ける。そうすれば特高の立場にあつた人達は怯える必要はないと思うの…でもそれは出来ないです。」

参考文献

総縲彌三は蛭川村名譽村民たるか 梅村 薫
日本の暗黒虎徹幻想 森村 誠一

下里 正樹
宮原 一雄

戦争と弾圧 総縲彌三の軌跡 總縲 厚
息吹・無産運動のう 岩井 末郎
編集

田口 進

